



成果指標				
成果指標	(実施戸数÷受付戸数)×100			
指標設定の考え方	成果指標を目標値に近づけることにより、一般民間木造住宅の耐震化が図られ、安心した生活が送れる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標20年度
目 標	80	80	0	0
実 績	22.2	22.2	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	木造住宅の耐震診断事業及び耐震補強事業を広く活用していただけるよう周知に努めたが、なかなか成果があがらないのが実情である。事業の内容について、精査を加えて成果につなげられる工夫が必要である。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	木造住宅の耐震診断及び耐震補強事業の推進については、木造住宅の耐震診断を受ける方、耐震補強を行う方に対し、その費用の一部を補助する制度を設け、受付期間の延長等、補助事業の周知及び実効性が高まるように努めた。また、市営住宅の住環境の一定保持について事業内容の精査を一層行うことで、経済性の向上を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題